

各関係機関長 様
病害虫防除員 様

長崎県病害虫防除所長

注 意 報

平成17年度病害虫発生予察 注意報第3号

かんきつ かいよう病

1. 発生地域(対象地域) 県下全域

2. 発生程度 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、越冬病斑が多く見られた(発病葉率 0.9% 平年 0.2%)。
- (2) 7月上旬の巡回調査(39筆)の結果、春葉の発病葉率 3.2% (平年 0.4%)、発病果率 0.2% (平年 0.0%)と過去10年間で2番目に高く、発生圃場率は 51.3% (平年 14.2%)と最も高い。
- (3) 7月に入って強風雨が続き、感染が広がっていると考えられる。
- (4) 諫早市、佐世保市及び有家町の病害虫防除員の報告によると、例年発生が見られないハウスマかん園でも発生が認められる。

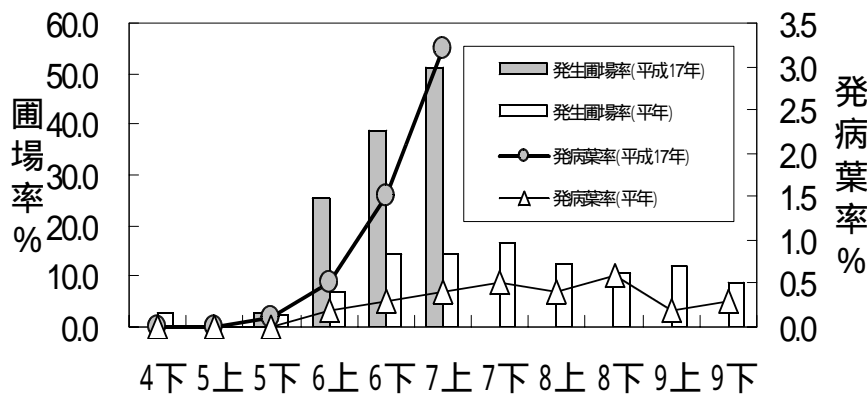


図 かいよう病(葉)の発生推移

4. 防除法

- (1) 発病枝や葉は伝染源となるのでできるだけ除去する。
- (2) すでに発病が目立つ園では、ただちに薬剤散布による防除を行う。
- (3) 耐病性が弱い品種が植栽されている園や発生が目立つ園では、台風の接近が予想される場合できるだけ限り襲来前の薬剤散布を行う。
- (4) ミカンハモグリガの食害痕は、かいよう病が広がる要因となるため、ミカンハモグリガの防除を徹底する。
- (5) 各品種による耐病性は下表の通りである。耐病性が弱い品種は特に注意する。また、温州みかんでは「させぼ温州」が耐病性が弱い。

表 かいよう病に対する各品種の耐病性（県病害虫防除基準）

耐病性	品 種 名
弱い	グレープフルーツ、ネーブル
やや弱い	ナツダイダイ、宮内イヨカン、天草、ありあけ
中程度	温州みかん、清見、不知火、南香
強い	ハッサク、ポンカン、ユズ、キンカン、日向夏

- (6) 薬剤はストレプトマイシン剤か銅水和剤（クレフノン加用）を散布する。なお、銅水和剤は高温時に散布すると薬害が出やすいので注意する。
- (7) ストレプトマイシン剤は、耐性菌出現の可能性があるので連用しない。
- (8) 薬剤散布に当たっては、使用基準を遵守する。